



MOTOKO HIRAKAWA

テキスタイルデザイナー
平岡 素子さん

秋田市新屋松美町16-48
TEL.018-823-9509

散歩して、植物に出会って

秋田の自然を布に映して

「秋田に住むようになってから、好きな植物をモチーフにした作品づくりが広がりました」

平岡素子さんは、版画の一種であるシルクスクリーンという技法で、布や紙に表現をしているテキスタイルデザイナーだ。スクリーン版をみずから手づくりし、デッサンした図柄をプリント。それを、タペストリーやかばん、本の装丁など、あらゆるものに形づくる。そのすべての工程を、平岡さんの手が創りだしている。

学生時代にグラフィックやエディトリアルなどのデザインを学び、その後、イタリア・フェレンツェでテキスタイルデザインの工房に従事。

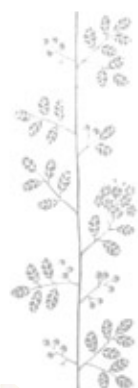
帰国して東京の会社で、カーテンや壁紙のデザインをしていた時は「仕事に追われていた」と話す。

「10年前、秋田に初めて来た時は、空気の清らかさ

や鳥海山の景色に感動しました。近所を散歩して、きれいな植物を見つけると、家に帰って図鑑を見ます。どんなに小さな植物にも、ちゃんと名前があって、それを見つるのが楽しい」

時には身近な草木で布を染める平岡さんは、近くの小学校で染め教室を開くこともある。

子供の時から絵を書くことが好きで、2005年にはポロニー国際絵本原画展で入選した経歴を持つ平岡さん。イタリアでの経験は、かえって日本独自の「空間を生かした洗練されたデザイン」を実感するきっかけになったという。平岡さんの作品にも、空間の中に洗練と優しさが感じられる。そよ風が吹いているような心地よさが、見る人をほっとさせる。



川辺に揺れる小さな植物。
庭で遊ぶ木々の鳥たち。
散歩の途中に見つけた、
葉や実で染めた季節色の布。
秋田のゆつくりとした
暮らしのリズムの中で生まれた、
図柄や彩りがそこにある。

